

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	美濃加茂市立伊深小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	ふるさと伊深のいきものや文化が語る今と昔、そしてこれから

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、活動に至る経緯

本校は令和5年度、創立150周年を迎える学校である。6年ほど前から美濃加茂市の小規模特認校としての役目を担っている1学級15人程度の小規模校である。本校では、これまでに地域素材を扱う学習を取り入れ、ふるさと教育に力を注いできた。今年度は、昨年度まで実施してきた「ふるさと伊深の里学習発表会」を改善する。

2、活動・研究の目的(ねらい)

充実した学習発表会を創り上げるために、今年度の研究テーマを「ふるさと伊深のいきものや文化が語る今と昔、そしてこれから」とした。そして、児童一人一人が創立150年の重みを理解し、愛校心溢れる子やこのまちがすきと言える子をめざす。

3、活動内容

(1) 伊深を知る～3年生伊深探検マップ作りの取り組み～

伊深町には、地域の人々の生活に密着した「天王用水」が流れている。また、町の偉人の逸話に由来する地名が残っている。そこで、社会科の地域学習との関連を図って地域の史跡や文化に触れる学習を進めた。初めに、「天王用水」について、地域の方から歴史を学び、次に用水に沿って散策も体験した。児童は「田んぼだけでなく、野菜を洗ったり、お風呂のお湯にしたりしていたことに驚いた」「130年以上昔に作られたものが、今も大切にされているので自分たちも伝えたい」と学習を振り返った。正眼寺については、偉人「えげんさん」の人柄や教え、正眼寺の歴史、僧侶の生活について学び、座禅も体験した。体験後には、『厳しい修行を積んで、伊深の人々のために尽くした。地域で「えげんさん」について語り継がれている理由がよく分かった』と感想をもち、地域についての理解を深めることができていた。天王用水や地域の自然の良さに多くの人が親しめるようにしたいという願いから、いくつか散策ルートを考え「伊深探検マップ」を作成した。



(2) 伊深の環境を知る～4年生大洞川を使った環境学習の取り組み～

伊深町は、自然豊かな土地である。子どもたちが、その良さを知るとともに、地域の方々の自然保全への思いに触れる学習を進めている。4年生は「伊深の環境を考える」をテーマに、市の環境課職員等の人材を活用して、専門家から環境調査や環境保全の方法を学んでいる。



はじめに、地域に流れる大洞川と川浦川について時期を変えて、継続して調査した。カワゲラやカワニナ、ヘビトンボ、ホトケドジョウ等を見付け、拡大観察器を使って観察や化学的に水質を調査する方法により伊深町の川がきれいであることを知った。その後、どのようにして守っていったらよいのかを考えた。SDGsの「12 つくる責任 つかう責任」「14 海の豊かさを守ろう」の観点から海洋プラスチックについて学び、川はやがて海につながっていくため、身近な川の環境保全が重要なことを学んだ。

(3) 伊深の郷土料理を知る～5年生郷土料理レシピを学ぶ～

5年生は、町づくり協議会の協力を得て、米作りを体験した。そこで、家庭科と総合的な学習の時間を関連付けて教育課程を編成した。町内で活動されている「ごはん料理研究会」の方を講師に招き、地域で伝わる季節ごとの郷土料理、食にまつわる風習、健康的な食事にするための工夫を学んだ。また、講師の先生から手ほどきを受けて、だんご汁・おはぎ・けんちん汁を調理した。作り方を学びながら、収穫を祝うために十五夜の日のだんご汁を食べることや、おはぎは萩の花に似ているから、おはぎという名前になった事、けんちん汁にお米のとぎ汁を使うことで、とろみが付き冷めにくくなるという工夫を知った。学んだことを発信したいという願いから、隣接する保育園に伺い、園児たちに学んだことを発表する活動を行った。このような活動を通して、地域の行事食の工夫や知恵を知り、この食文化を発信して広めるとともに、町への誇りと愛情を持つことができた。



(4) 伊深小150年を知る～6年生伊深小学校150年を学ぶ～

まず『伊深小学校百年史』や『伊深の歴史年表』などの資料から、伊深小学校の百年の歴史について調べた。その中で、年代によって教育活動が異なる点に気付き、「年代による教育活動の違い」に課題意識をもった。そこで、町づくり協議会の方と交流する場を設けて、年代別に異なる活動や現在まで存続した活動があることなどを知った。今後も歴史ある活動を大切にしていきたいという願いを持たた。さらに、50年程前までは校歌として歌われた歌（旧校歌）と現在の校歌が異なることを知り、「昔と現在の校歌の違い」に関心をもった。そこで、町づくり協議会の方々と、旧校歌と現校歌を交流する場を設けた。校歌交流では、旧校歌を教えていただき、新校歌を披露した。また、旧校歌と現校歌の歌詞に共通する言葉から、町や伊深小学校への理解を深めた。



(5) その他

学校創立150周年であることを受け、150周年記念カレンダー（令和6年4月始まり）を制作し、お世話になった地域の方々や関係機関に配布した。また、令和5年12月9日に実施したふるさと伊深の里学習発表会において各学年の学習発表だけでなく、「校歌」と「咲かせよう笑顔の花を」を全校合唱した。また、6年生の発表では、今年度取り組んでいる新しい文化「全校体づくり」の一部を披露し、150年のつながりを示した。



4. 成果と課題

○ふるさと学習を通して、地域についていろいろな視点からとらえ、自然や風物、歴史や人々に魅力や良さを見出すことができた。また、伊深町を大切に思い、町づくりのために尽力する方々の存在や先人の知恵等を知ることができた。

○児童が学習に取り組む様子や発表する様子から「このまちがすき」といえる子が育ちつつある。

▲今後も地域と密着した取り組みを続け、「このまちがすき」といえるかについて数値で示すことができるようにしたい。